

演題 23. 喀痰の緊急塗抹検査の試みと
その有用性

○静野健一 牧野巧 山田房子 郡美夫(千葉市立海浜
病院)

【目的】感染症は急性疾患であり、迅速な結果報告が必要とされる。しかし、培養を中心とした検査法では最終報告までに2～3日を要し、検査結果が診断と治療の後追いになる場合も多い。一方、塗抹検査は迅速診断としての有用性が認められており、我々も緊急塗抹検査を日常検査に導入し実施してきた。そこで導入後の意義について喀痰を中心に評価した。

【方法】2006年9月より細菌検査依頼伝票の項目に、通常の塗抹検査とは別に、緊急塗抹検査依頼項目欄を新たに設けた。喀痰は生理食塩水による洗浄操作を行い、採取時の常在菌による汚染の影響を減らし、塗抹と培養検査に用いた。標本はグラム染色を行い、Geckler分類による喀痰の評価を行った。結果は可能な限り菌種を推定し、30分以内に報告した。塗抹結果と培養結果の一致率を検討し、さらに今回の試みについて臨床医にアンケート調査を実施し、意見をまとめた。

【結果】1.緊急塗抹検査の依頼数は着実に増えてきており、臨床側へ浸透していることが実感できた。2.臨床医へのアンケート調査では、診断と治療に有用であり、抗菌薬治療の参考になる等の意見が寄せられた。3.塗抹検査と培養検査は高い一致率を認めた。4.塗抹検査から百日咳菌を疑い、診断に貢献することのできた症例を経験したのでともに報告する。

【考察】塗抹と培養との検査結果の一致率をより高めることを目指すとともに、現時点での緊急塗抹検査は小児科からの依頼が殆どであるため、他科の医師にも緊急塗抹検査の意義を啓蒙し、より臨床側に貢献できる体制を作っていきたい。

043-277-7711 内線(315)